

**学校法人近畿大学弘徳学園
近畿大学豊岡短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

近畿大学豊岡短期大学の概要

設置者	学校法人 近畿大学弘徳学園
理事長名	上田 正一
学長名	上田 正一
A L O	長谷川 定宣
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	兵庫県豊岡市戸牧160番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
こども学科		50
	合計	50

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

学科	入学定員
こども学科	2,000
	合計 2,000

機関別評価結果

近畿大学豊岡短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、近畿大学創立者世耕弘一が説いた、「教育の目的は、人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある。」を建学の精神、教育理念としている。

年度始めの「新入生歓迎会（フレッシュマンキャンプ）」を 1 泊 2 日で開催し、自然との「共生の心」を培う体験合宿をテーマとする取組みに、平成 18 年度に文部科学省が選定事業として採択したことも「共生の心を備えた人材」の成果といえる。

校地面積、校舎面積、講義室および演習室は充分である。各種機器なども整備され、活用されている。図書館の広さは充分で、付帯設備は整備されている。蔵書数、学術雑誌数、AV 資料など、座席数も充分である。

教育課程の中には、教育目標の「共生の心」の反映である「こどもの人権」「こどもと文学」「こどもと音楽」「こどもとうた」など、独自の科目を設け、幼稚園教諭など専門職への就職率も高い。

学生支援については、多様な選抜試験に全学的な取組みがされ、入学支援に関しても大学案内などにおいて十分な情報が示されている。学習支援、学生生活支援、進路支援については、各委員会や少人数担任制を敷き、全学的に取り組んでいる。また独自の奨学金制度を設け、多くの学生が利用している。社会人や障害者への支援も整いつつある。

研究については、教員は、毎年「近畿大学豊岡短期大学論集」を発刊している。教員の年齢構成もバランスがとれている。

社会的活動については、教職員の協力と指導のもと、地域に根ざしたボランティア活動を幼稚園、小学校、老人施設などで多様な形で行っている。また、地域の高等学校へ教員が出向き「出前授業」を行い、高大連携にも取り組んでいる。このほか地域社会に向けて育児支援リーダー講座、パソコン講座、音楽リサイタルなど市民の参加可能な講座を開設している。

管理運営については、理事長（学長）は学校法人運営および学校運営に関しリーダー

ーシップを發揮している。学長は教職員と連携し、重要事項は理事会・評議員会に諮られ適切に運営されている。

財務については、予算編成が中・長期的な計画に基づき行われている。また、公認会計士、監事による監査、私立学校法に基づく情報公開なども適切に行われている。火災など災害対策についても消防署の協力を得て、学生・教職員の火災非難訓練が定期的実施されている。コンピュータシステムについては、ファイアーウォールなどのセキュリティ対策がとられている。

改革・改善について、当該短期大学では、平成 5 年より自己点検・評価に取組み、自己点検・評価委員会規則を制定し、委員会を設置し体制を整えている。

平成 18 年には、自己点検・評価報告書を作成し、近畿大学法人系列の大学、短期大学に配布している。報告書作成には責任体制を整え、全教職員が関わってきた。現在、相互評価についても検討中であり、なお一層の改革・改善への積極的な取組みが計画されている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 地区の園長との懇談会や卒業生の懇談会を開催し、教育に関するアンケートを実施するなど地域や卒業生と関わり、教育の効果を確認し、教育の実績を上げる努力が払われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学費減免制度に加え家計の急変した学生の支援として応急奨学生制度が設けられている。
- 当該短期大学の「自然との『共生の心』を培う体験学習」をテーマとする、1泊2日の「新入生歓迎会（フレッシュマンキャンプ）」が文部科学省の「平成 18 年度私立大学教育研究高度化推進特別補助」事業に応募し採択されたことは、教育目的・目標が具体的な教育活動のなかでいかされた成果である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域の一般市民のための公開講座の開講は、地域に根ざした短期大学としての使命を果たしている。こども学科という専門をいかした「音楽リサイタル」と、市民のニーズに応えた「パソコン講座」は、社会活動としての役割を果たしている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅴ 学生支援

- アドミッション・オフィス（AO）入試や早期の推薦入試の入学予定者に対する入学前教育に関する検討が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究業績に消極的な教員が散見されることから、今後の研究活動の活性化への工夫が必要である。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

3. 領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創設者の唱えた「教育の目的は、人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある」という言葉を建学の精神として据えており、この言葉は玄関に掲げられたり、入学案内、学生便覧あるいは学長講話などにおいて明確に示されている。

具体的な教育目標として「共生の心を備えた人材の育成」を掲げ、この目標の実現のために、各設置学科の目指す教育の主旨に沿った教育目的・目標を定めている。具体的な教育目標についても、各種ガイダンスなどの折に周知が図られ、教職員には各種会議などの折にもその周知、確認が行われ、また見直し、改善については必要に応じて、教務委員会などでの検討を経て教授会に諮られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育目標の「共生の心」は、こども学科においては、こどもとその保護者とともに生きることになって、学科発展の基盤となっている。教育課程は必修と選択がバランスよく取られおり、科目内容も幼児教育に携わる保育士・幼稚園教諭を養成するのに適切である。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員の規定数は充足している。短期大学の教員として、教育業績や経歴など適性である。教員の採用、昇任には、「近畿大学豊岡短期大学教員選考基準」に基づき適切に行なわれ、教員組織は整備されている。各教員は学内内規に則って、意欲的に業務に取り組んでいる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

こども学科において、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状の資格取得が最重要と思われるが、ほとんどの学生が両資格を取得し、臨時採用は多いものの、保育士、幼稚園教諭など専門職への就職率も高く、教育目標の達成への努力がうかがえる。また、地区の園長との懇談会や卒業生との懇談会を開催し、「教育に関するアンケート」を実施するなど地域や卒業生と関わり、教育の効果を確認し、教育の実績を上げる努力が感じられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援に関しては、大学案内などにおいて十分な情報が示され、多様な選抜試験も全学的な組織で取組みがされ、入学者に対しても懇切丁寧な情報提供が行なわれ、入学に関する十分な支援が行なわれている。

学習支援、学生生活支援、進路支援については各委員会や少人数担任制を敷き、全学的な体制で取組まれている。また、当該短期大学独自の奨学金を設け、多くの学生を採用している。

評価領域Ⅵ 研究

教員には、毎年業績を報告することになっており、年 1 回の「近畿大学豊岡短期大学論集」の発行を行い、グループ研究についてもこの論集に報告されている。このことは、短期大学として熱心に取組もうとする姿勢をうかがうことができる。そして教員の研究意識や個々の質の向上に関して意欲的である。

科学研究費補助金などの申請には、毎年提出しているが採択がない結果であるが、毎年提出をすることにも大きな意味があることから、今後も各教員の意識を高め、事務的な作業を職員がサポートするなど短期大学としての積極的な取組みが期待できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

兵庫県北部に位置している唯一の高等教育機関としての使命を持ち、地域に根ざした社会的活動を積極的に支援していることが理解できる。教職員の協力と指導のもとに、学生の教育の一環としてボランティア活動を様々な形で行っている。地域の幼稚園、保育所、小学校、老人施設など幅広く訪問している。平成 18 年度には、年間 29 回を超える活動であった。

また、地域貢献には学生だけでなく地域の高等学校へ教員が出向いて授業を行う「出前授業」は、高大連携の活動としている。

短期大学として地域社会に向けての活動として、地域の育児支援リーダー養成講座の開講やパソコン講座、音楽リサイタルの実施などは、市民が参加できる講座を開設

するなど積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事・監事・評議員の構成は寄附行為に基づき適切に選任されている。

理事長（学長）は法人および学校運営にリーダーシップを発揮している。また、教職員との連携を密にし、重要案件については、理事会・評議員会に諮り審議・決定している。

事務組織は学園事務組織規程に基づき組織され、各部署には事務分掌・諸規程が整備されている。

学生アンケートの結果、職員は多数の学生から支持、信頼を受けていることがうかがえる。

スタッフディベロップメント（SD）活動は、平成19年4月に「SD委員会規程」が定められたが、これまでも各種研修会に積極的に参加することなどで職員の資質向上も行われている。

評価領域Ⅸ 財務

予算編成は、中・長期計画に基づき行なわれ、各予算担当部署からの申請を集約した予算原案は、評議員会の諮問を経て理事会で決定し、3月末までに各部署に通知されている。

予算の執行にあたっては学内諸規程に基づき適切に行なわれている。

公認会計士・監事による監査、私立学校法に基づく情報公開なども適切に行なわれている。

資金運用はリスクを避け、安全性を重視した運用が行なわれている。

消費支出比率、消費収支差額は収入超過で、教育研究経費などの配分も適正に行なわれている。

火災など災害対策は、消防署の協力を得て学生・教職員の火災避難訓練が定期的に行なわれ、地震対策についてはすでに耐震診断が実施され、耐震工事が必要との結果が出ているので、工事時期・方法などについて現在検討中である。

コンピュータシステムにはファイアーウォールなどのセキュリティー対策がとられている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学では平成5年から自己点検・評価に取組み、自己点検・評価委員会規則を制定し委員会を設置して体制を整えている。平成18年度にも自己点検・評価報告書（概要）を作成し、近畿大学法人系列の大学・短期大学に配布している。報告書作成には責任体制を整え、全教職員が関わってきた。従来から、点検の結果明らかになった課題については、自己点検・評価委員会を中心に各部署で改善を図ってきたが、

当該短期大学の向上のために自己点検・評価活動の果たす役割の重要性が充分認識されており、このたびの第三者評価結果についても、より一層真摯に受け止めて、改善を行うとの意思表示がされている。